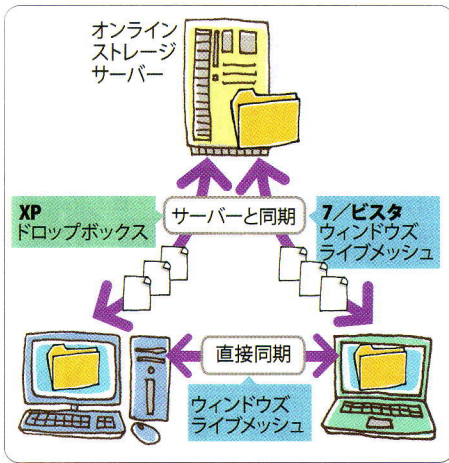


複数のパソコンから開いて ファイルをクラウドに置いて 複数回のパソコンから開く!



クラウドサービスで提供される「オンラインストレージ」を徹底活用する

図1 7/Vista対応の「Windows Live Mesh」は、パソコン間での直接同期にも対応する。XPユーザーにはサーバーを介して同期する「ドロップボックス」がおすすめだ。

外出先でファイルが必要になったら、デスクトップパソコンで作成した書類をネットブックで開きたい場合など、複数のパソコンで同じファイルを利用する方法としてまず考えられるのは、Windowsの「ファイル共有」を利用するやり方です。

ただこれは、ファイルをやり取りするパソコンが「会社」や「自宅」といった、同じネットワーク（LAN）の中にないと使えません。つまり、外出先でふと思いついて自宅にあるパソコンとファイルを共有しようと思っても、インターネット経由ではできないのです。

そこで考えられるのが、クラウド上にアップロードしたファイルをインターネット経由でダウンロードできる「オンラインストレージ」を使う方法です。しかし、残念ながらこれも万能ではありません。ファイルのアップロードを忘れると、やはり外出先でファイルを参照できないからです。

外出先でファイルが必要になったら

デスクトップパソコンで作成した書類をネットブックで開きたい場合など、複数のパソコンで同じファイルを利用する方法としてまず考えられるのは、Windowsの「ファイル共有」を利用するやり方です。

ただこれは、ファイルをやり取りするパソコンが「会社」や「自宅」といった、同じネットワーク（LAN）の中にないと使えません。つまり、外出先でふと思いついて自宅にあるパソコンとファイルを共有しようと思っても、インターネット経由ではできないのです。

そこで考えられるのが、クラウド上にアップロードしたファイルをインターネット経由でダウンロードできる「オンラインストレージ」を使う方法です。しかし、残念ながらこれも万能ではありません。ファイルのアップロードを忘れると、やはり外出先でファイルを参照できないからです。

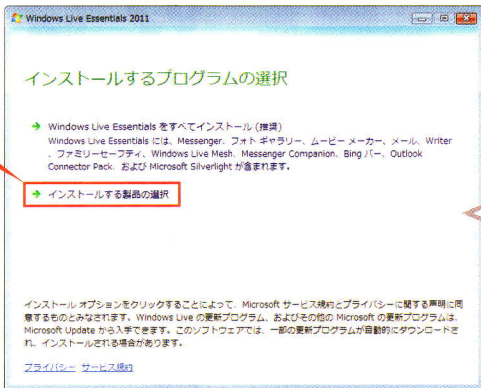


図3 Windowsライブエッセンシャルズには複数のプログラムが含まれる。ここでは②「インストールする製品の選択」をクリック。

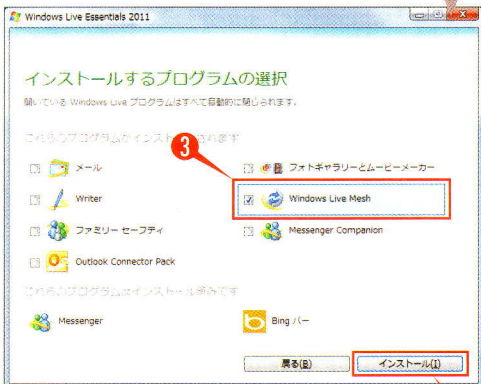


図4 ソフトウェアの一覧が表示されるので、③「Windows Live Mesh」にチェックを入れて④「インストール」をクリックする。

「Windowsライブエッセンシャルズ 2011」をインストールする

無料ソフト



Windowsライブエッセンシャルズ2011

URL explore.live.com/windows-live-essentials/

作者……マイクロソフト

対応OS……7 ビスタ

ダウンロード方法 上記サイトの「今すぐダウンロード」をクリックして、「[wsetup-web.exe]をダウンロードする。



図2 ウェブブラウザでWindowsライブエッセンシャルズのウェブページを開き、①「今すぐダウンロード」をクリック。

クラウド対応で便利な ファイル同期サービス

こうした問題を一気に解決できるのが、インターネットを利用した「ファイル同期サービス」です【図1】。このサービスを利用すれば、あるパソコンでファイルを保存すると、自動的に他のパソコンにファイルがコピーされるので、手作業でコピーする必要がありません。「コピーのし忘れ」といううっかりがなくなるだけでなく、いつでも最新のファイルが同期されるのが手に入ります。

同期したくなくても、モバイル環境で使えるインターネット接続回線があれば、その場でファイルが手に入ります。さらに最近では、クラウド上のサーバーとファイルが同期できるサービスも登場しています。サーバーと同期が行われていれば、あとは自宅のパソコンの電源が入っていなくても、外出先で最新のファイルが手に入ります。

こうしたサービスには、「マイクロソフト」の「ワンドライブライブメッシュ」(以下、「ライブメッシュ」)や、「ドロップボックス」などが提供している。「ドロップボックス」などがあります。まずはライブメッシュについて見ていきましょう。

バックアップ用途にも 使える魅力

ライブメッシュは、マイクロソフトが提供するオンラインサービスで、メールアドレスを登録するだけの「ライブID」を取得すれば、誰でも無料で利用できます。また、同じく無料で公開されている専用のソフトをインストールすれば、自動的にファイルの同期が行われる他、5GBまでという制限はあるものの、クラウドにあるサーバーとも同期できます。

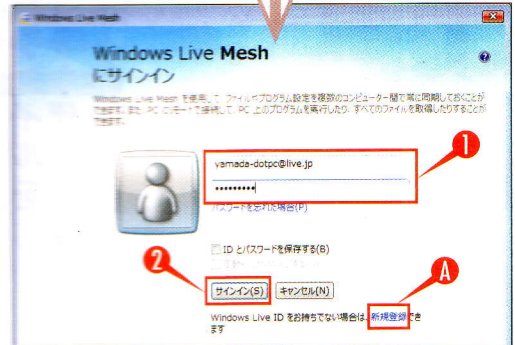
ライブメッシュを利用するまでの流れとしては、まず最初にファイルを同期したいすべてのパソコンに「ワン

ドライブライブエッセンシャルズ2011」をインストールします【図2〜4】。その後、各パソコンでライブメッシュを起動し、ライブIDを入力してログインしておきます。

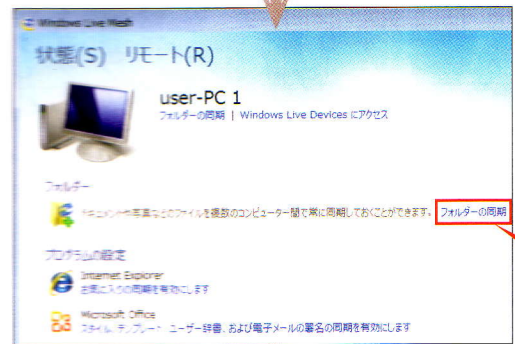
次に、どれか1台のパソコンで同期作業を行います。同期するフォルダーを選択すると、続けて同期先のパソコンを選択する画面が表示されるので、事前にライブIDでログインしておいた他のパソコンを選択しましょう。このとき「SkyDrive」同期ストレージを選択すると、クラウド上のサーバーである「スカイドライブ」にもファイルが保存されます【図5〜8】。

同期するフォルダーを設定する

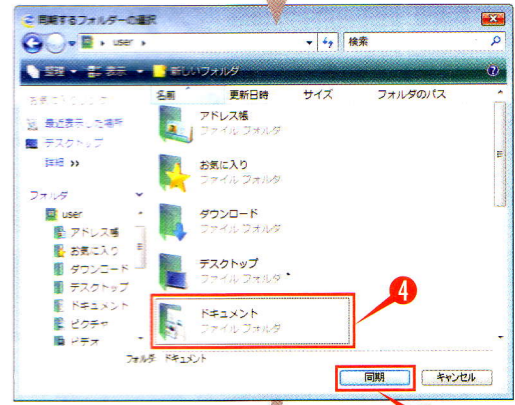
[スタート]ボタン→[すべてのプログラム]→
[Windows Live]→[Windows Live Mesh]をクリック



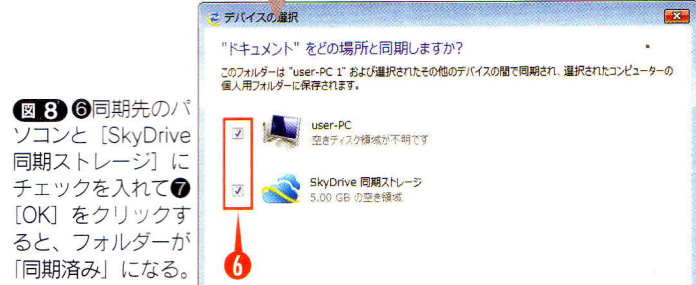
【図5】サインイン画面が表示されるので①IDとパスワードを入力して②[サインイン]をクリック。ライブIDを持っていない場合はA[新規登録]をクリックする。



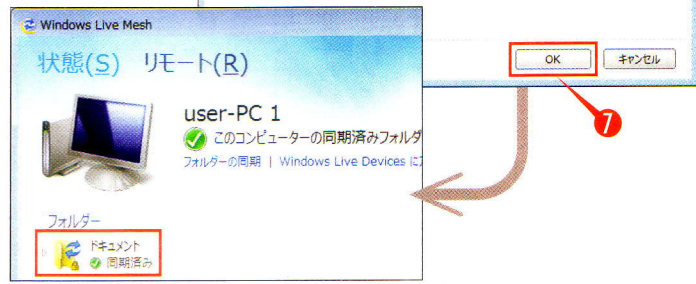
【図6】設定画面が表示されるので③[フォルダーの同期]をクリックする。



【図7】ダイアログが表示されるので、④同期したいフォルダーを選択してから⑤[同期]をクリック。



【図8】⑥同期先のパソコンと[SkyDrive同期ストレージ]にチェックを入れて⑦[OK]をクリックすると、フォルダーが「同期済み」になる。



同期しているファイルは ウェブブラウザで確認できる



図9 ウィンドウズライブメッシュを起動して①[Windows Live Devices にアクセス]をクリック。



図10 ウェブブラウザが起動するので、一覧から②[SkyDrive 同期ストレージ]をクリックする。

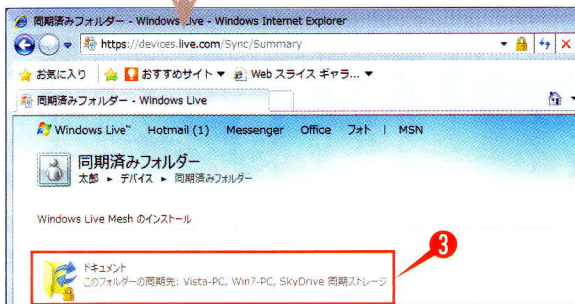


図11 同期しているフォルダーの一覧が表示される。③アップロードしたファイルが保存されているフォルダーをクリック。

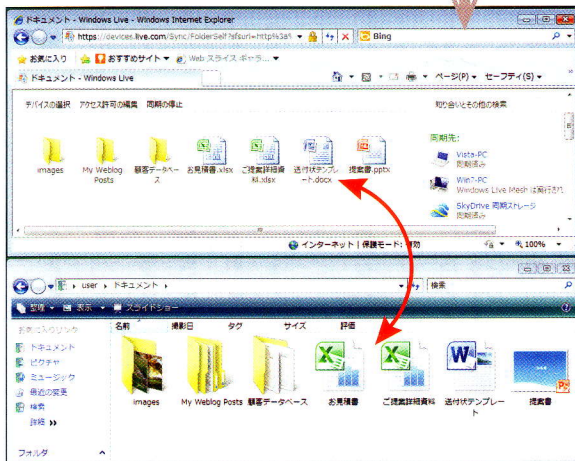


図12 SkyDrive 同期ストレージにアップロードされたファイルが表示される。パソコン内のファイルと同一であることがわかる。

同期したファイルは ウェブブラウザで確認

スカイドライブは、マイクロソフトのオンラインストレージサービスで、全体で25GBのファイルが保存でき、加えて5GBの容量がファイル同期用のスペースとして割り当てられています。

スカイドライブ上にアップロードされたファイルには、ウェブブラウザを使ってアクセスできます。ライブメッシュの起動画面の「Windows Live Devices にアクセス」というリンクをクリックすると、ウェブブラウザが起動してスカイドライブのウェブページが表示されます【図9～10】。ここ

リックし、さらに同期しているフォルダーをクリックすれば、アップロードされたファイルを確認可能です【図11】。

スカイドライブ同期ストレージに保存されたファイルは、ライブメッシュをインストールしていないパソコンでもダウンロードできます。具体的には、まずスカイドライブのウェブページを開き、ライブメッシュで利用したライブIDでサインインします。続けて「同期済みフォルダーを表示する」というリンクをクリックすると、同期したフォルダーの一覧が表示されます。あとは、先ほど同じようにフォルダー、そしてファイルをクリックすると、そ

バックアップ用途にも 活用できる

このファイルのダウンロードが開始されるというわけです。外出時など、普段利用していないパソコンからも同期しているファイルを利用できるので。

ここまで、複数のパソコンとスカイドライブ同期ストレージの間でファイルを同期する方法を説明してきました。ただ、パソコンが1台しかない場合でもライブメッシュを利用するメリットはあります。それはバックアップ用途です。とくに使い方は変わりません。先ほどと同様、いつもファイルを保存しているフォルダーを同期し、同期先とし

てSkyDrive同期ストレージを指定するだけです。これで、作成したファイルは自動的にクラウドのサーバー上に保存されるので、万が一パソコンのHDDが故障しても、別のパソコンでサーバーと同期すれば、ファイルをダウンロードして復旧できるというわけです。

さらに、ファイルを作成すると自動的にサーバー上にファイルがアップロードされるため、バックアップソフトを立ち上げたり、バックアップのスケジュールを設定したりする手間が不要というのも便利な点です。このようなバックアップ環境が「無償」で利用できるのも大きなポイントです。ぜひ活用してみてください。

ファイルの履歴管理に強い「ドロップボックス」は ライブメッシュが使えないXPユーザーにおすすめ

XPでも使える ドロップボックス

ここまで見てきたライブメッシュは、ウィンドウズ7/ビスタのみの対応で、XPでは利用できません。そこでXPユーザーには、「ドロップボックス」をおすすめします。

ドロップボックスはライブメッシュと同様に、複数のパソコンでファイルが同期できるサービスです。大きな違いは、ライブメッシュでは可能なパソ

コン間の直接同期ができないこと。ドロップボックスではファイルが必ずサーバーに保存されるので、サーバー上で割り当てられた容量以下の大きさのファイルしか同期できません。

ドロップボックスが無償で提供している容量は2GBで、それ以上のファイルを同期したい場合は有償サービスとして、月額9・99ドルもしくは年額99・99ドルで50GB、月額19・99

ドルもしくは年額199ドルで100GBの2つの選択肢があります。

作成したファイルは自動的にアップロード

サービス利用のためのユーザー登録は、インストール中に行います【図1】。さらにインストールを進めると、サーバー上で利用する容量の選択画面になります。あとから変更できるので、ここでは無償の2GBを選びま

す【図3】。インストールが完了する

と、ウィンドウズXPなら「マイドキュメント」の中に「My Dropbox」というフォルダーが作成されます【図4】。

その後ファイルを同期したいすべてのパソコンにドロップボックスをインストールします。このとき、各パソコンでアカウントを新規作成する必要はなく、最初に作成したアカウントを利用します。インストールが終われば、「My Dropbox」フォルダーができます。

無料ソフト



ドロップボックス
www.dropbox.com

作者——ドロップボックス
対応OS——7 ビスタ XP

ダウンロード方法 上記サイトの[Download Dropbox]をクリックして、「Dropbox 1.0.10.exe」をダウンロードする。



図1 ドロップボックスのウェブサイトにて「Download Dropbox」をクリックして、インストーラーをダウンロードする。

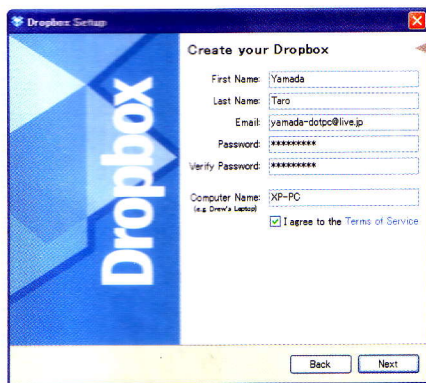


図2 インストール中にユーザー登録ができる。名前やメールアドレス、パスワード、コンピュータ名を入力して、「I agree～」にチェックを入れる。

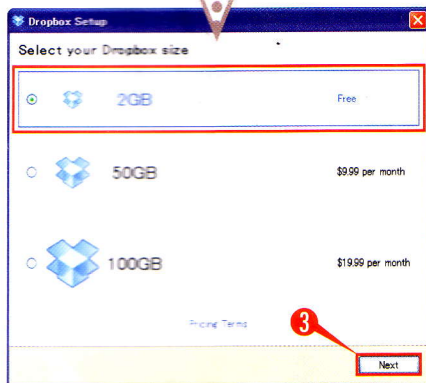


図3 無料で使えるのは2GBまで。あとから50GBや100GBへアップグレード可能なので、まずは②[2GB]にチェックを入れて③[Next]をクリック。

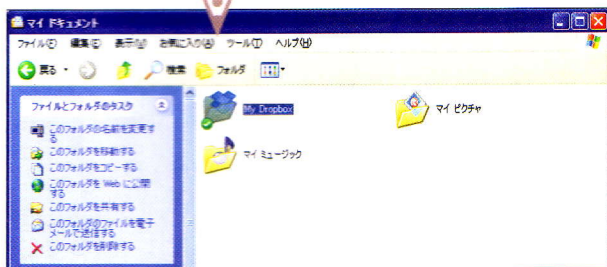
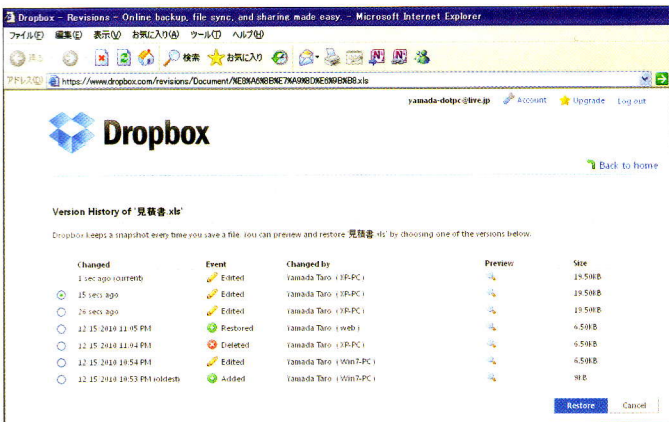
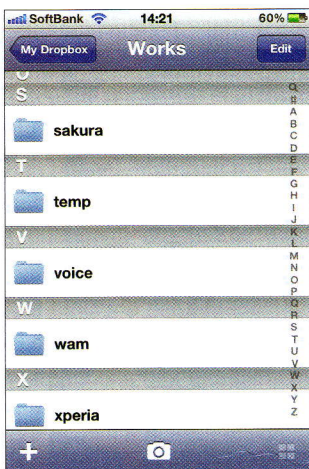


図4 インストールが完了すると、XPならマイドキュメントの中に「My Dropbox」というフォルダーが作成される。

上書きしても以前のファイルを取り出せる 「バージョン管理」機能が付いている

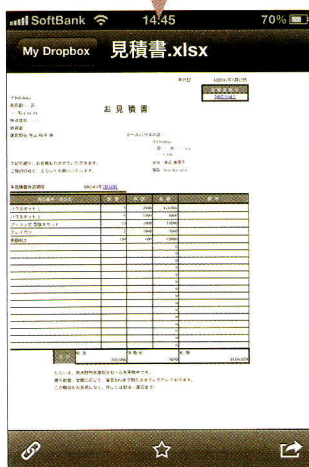


【図7】それまでに上書き保存した履歴を参照できるだけでなく、指定した時点のファイル内容に戻せる「バージョン管理機能」を搭載している。



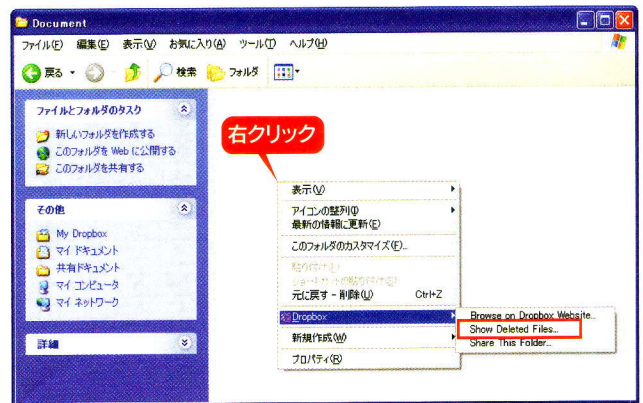
スマートフォンで 中身が確認できる

【図8】iPhone用の専用アプリでドロップボックスにアクセスしたところ。My Dropboxに保存したファイル参照できる。

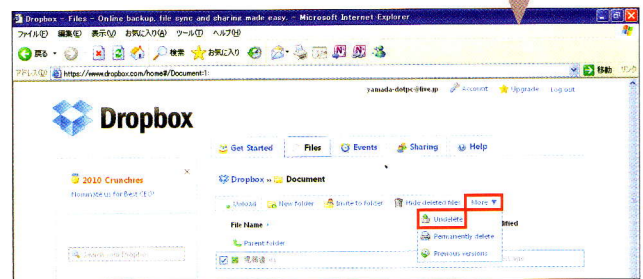


【図9】再現性はそれほど高くないが、ワードやエクセル、パワーポイントのファイルを表示できる。

一度削除したファイルも取り戻せる



【図5】削除したファイルを復元するには、フォルダーの空白部分を右クリックし、「Dropbox」メニューから「Show Deleted Files」を選択。



【図6】削除したファイルの一覧が表示されるので、復元したいファイルをチェックし、「More」メニューから「Undelete」を選択する。

複数のパソコンにドロップボックスをインストールした状態で、My Dropboxフォルダーにファイルを保存すると、サーバーに自動的にアップロードが行われ、同時にドロップボックスをインストールした他のパソコンにファイルが転送されます。もしパソコンの電源が入っていないければ、次に電源を入れたときに同期が行われます。

削除したファイルを元に戻せる

ドロップボックスには、削除したファイルを復元したり、間違って上書き保存したファイルを元に戻す仕組みが備わっています。削除したファイルを復元するには、ファイルを削除したフォルダーを開き、空白の部分を右クリックして「Dropbox」メニューから「Show Deleted Files」を選択します。するとウェブブラウザが起動して、削除したファイルの一覧が表示されま

す。ここで復元したいファイルをチェックして「Undelete」を選択すると、指定したファイルがもとのフォルダーに現れます【図5～9】。

誤って上書きしてしまったファイルを元に戻せる、「バージョン管理機能」もイザというときに役立ちます。この機能を利用するには、上書き保存したファイルを右クリックして「New Previous Versions」を選びます。これでウェブブラウザに、そのファイルを上書き保存した履歴が表示されるので、元に戻したい時点をチェックして「Restore」ボタンを押せば、指定した時点でファイルの内容が戻ります【図7】。

【図7】。ウィンドウズだけでなく、Mac OSやiPhone、アンドロイドに対応しているのもドロップボックスの魅力。手元にパソコンがなくても、スマートフォンでドロップボックスにアクセスできます【図8～9】。